リクルート進学総研

マーケットレポート株式会社リクルートマーケティングパートナーズリクルート進学総研

Market Report 2014.JULY

リクルート進学総研

http://souken.shingakunet.com/

18歳人口・大学/専修学校進学率・残留率の動向 - 都道府県別分析:関東・甲信越版―

- ※データについて
- ■18歳人口概算 算出方法について

<18歳人口=3年前の中学校卒業者及び中等教育学校修了者数> ※中学校卒業者数=高校生+フリーター+就職者 すべて含む

<テータ元>		
年	学校基本調查	速報値
H23年(2011年)	H20年(2008年)	の中学校卒業者数
H24年(2012年)	H21年(2009年)	の中学校卒業者数
H25年(2013年)	H22年(2010年)	の中学校卒業者数
H26年(2014年)	H23年(2011年)	の中学校卒業者+中等教育学校前期課程修了者 (全国のみ)
H27年(2015年)	H24年(2012年)	の中学校卒業者+中等教育学校前期課程修了者 (全国のみ)
H28年(2016年)	H25年(2013年)	の中学校卒業者+中等教育学校前期課程修了者 (全国のみ)
H29年(2017年)	H25年(2013年)	の中学校3年生+中等教育学校前期課程3年生の児童数
H30年(2018年)	H25年(2013年)	の中学校2年生+中等教育学校前期課程2年生の児童数
H31年(2019年)	H25年(2013年)	の中学校1年生+中等教育学校前期課程1年生の児童数
H32年(2020年)	H25年(2013年)	の小学校6年生児童数
H33年(2021年)	H25年(2013年)	の小学校5年生児童数
H34年(2022年)	H25年(2013年)	の小学校4年生児童数
H35年(2023年)	H25年(2013年)	の小学校3年生児童数
H36年(2024年)	H25年(2013年)	の小学校2年生児童数

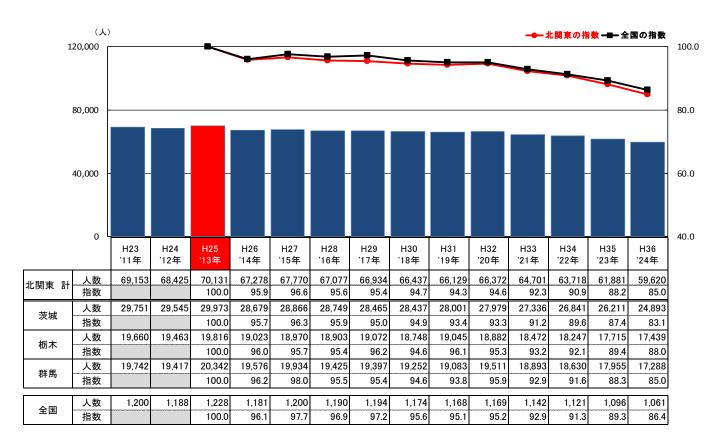
- ■卒業者数=高等学校全日制・定時制・中等教育後期課程
- ■進学者数=大学・短期大学・専修学校(専門課程)に進学した数
- ■進学率 =卒業者数/進学者数
- ■残留率 =各都道府県の高校卒業者が地元の大学・短期大学に入学した割合

データは全て「平成25年度確 学校基本調査(確定版)」より

北関東エリア

■18歳人口の推移(予測)

- ・北関東全体では、2013年から2014年で7.0万人→6.7万人に減少、2020年までは6.7万人前後でほぼ横ばい傾向だが、2021年以降減少に転じ、2024年には6.0万人となる。(2013年と比較して1万人減、15.0%減)
- ・18歳人口の減少幅は、全国のトレンドとほぼ同じ推移。
- ・都道府県別に2024年までの推移をみると、茨城県の減少率が最も高く(16.9%減)、次いで群馬(15.0%減)、栃木(12.0%減)と続く。



北関東エリア

■進学者数・進学率・残留率の推移(概要)

・北関東全体では、2013年の進学率は大学46.3%、短期大学4.4%、専修学校18.6%。経年で見ると、大学 は2010年の48.1%をピークに減少。短大も継続して減少傾向。一方、専修学校は2009年に15.6%まで減少 したもののその後上昇している。

2013年の残留率は大学23.1%、短大60.8%。2004年と比較すると3ポイント前後増加している。

· 茨城県では、2013年の進学率は大学45.9%、短期大学3.2%(全国46位)、専修学校18.3%と、短大進 学率が低い。経年で見ると、大学は2010年の47.8%をピークに減少。短大は継続して減少傾向にあり、こ こ10年で半数に減少。専修学校は2009年に15.0%まで減少したものの、その後上昇している。

2013年の残留率は大学19.8%、短大40.6%。経年で見ると、大学は20%前後でほぼ横ばい。一方、短大は この10年で7.0ポイント減少。流出先は大学・短大ともに1位は東京、2位千葉、3位埼玉。

・栃木県では、2013年の進学率は大学47.2%、短期大学5.0%、専修学校17.6%。経年で見ると、大学は 2011年の48.9%をピークにほぼ横ばい。 短大は継続して減少傾向、 専修学校は2009年に14.8%まで減少し たものの、その後上昇している。

2013年の残留率は大学22.3%、短大67.2%。経年で見ると、大学は2011年まで増加傾向だったがその後減 少。一方、短大は増加しており、この10年で11.2ポイントの増加。流出先は大学1位は東京、2位埼玉、3位 神奈川。短大は1・2位は共通で、3位は群馬。

·群馬県では、2013年の進学率は大学45.8%、短大5.5%、専修学校20.0%。経年で見ると、大学は2010 年の48.2%をピークに減少。短大は継続して減少傾向、専修学校は2009年に17.5%まで減少したものの、 その後上昇している。

2013年の残留率は大学29.4%、短大75.2%(全国10位)で、短大は地元志向が強い。経年で見ると、とも に増加傾向にあり、地元志向が強まっていることがわかる。流出先は大学は1位東京、2位埼玉、3位神奈川。 短大は1位東京、2位栃木、3位埼玉。

北関東全体 18歳人口7.0万人→2024年6.0万人(減少トレンドは全国とほぼ一致)

進学率:大学46.3%(47.4)、短大4.4%(5.4)、専修学校18.6%(17.0)

残留率:大学23.1%、短大60.8% ともに増加傾向

※カッコ内は全国平均

栃木県 18歳人口2.0万人 →2024年1.7万人

進学率:大学47.2%、短大5.0%、専修学校

17.6%

残留率:大学22.3%、短大67.2%、

短大は増加傾向

流出先:大学1位東京、2位埼玉、3位神奈川。 短大1位東京、2位埼玉、3位群馬。

群馬県 18歳人口2.0万人 →2024年1.7万人

進学率:大学45.8%、短大5.5%、専修学校

20.0%、専修学校が高い

残留率: 大学29.4%、短大75.2%、

ともに北関東最高、地元志向が高い

流出先:大学1位東京、2位埼玉、3位神奈川。 短大1位東京、2位栃木、3位埼玉。

茨城県 18歳人口3.0万人 →2024年2.5万人

進学率:大学46.3%、短大4.4%、専修学

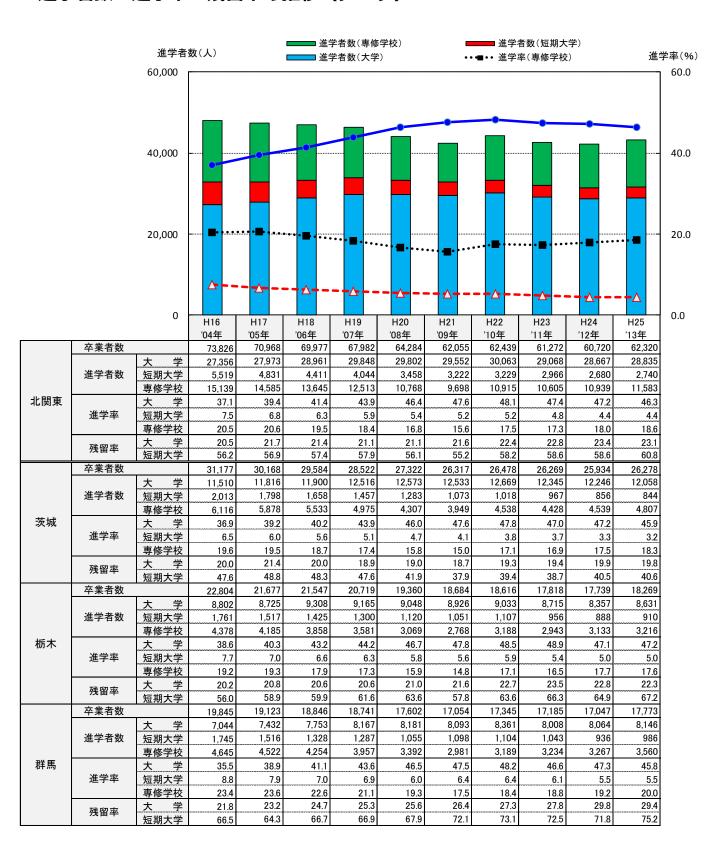
校18.6%

残留率: 大学19.8%、短大40.6%、大学

は横ばいだが短大は減少傾向 流出先:1位東京、2位千葉、3位埼玉。

北関東エリア

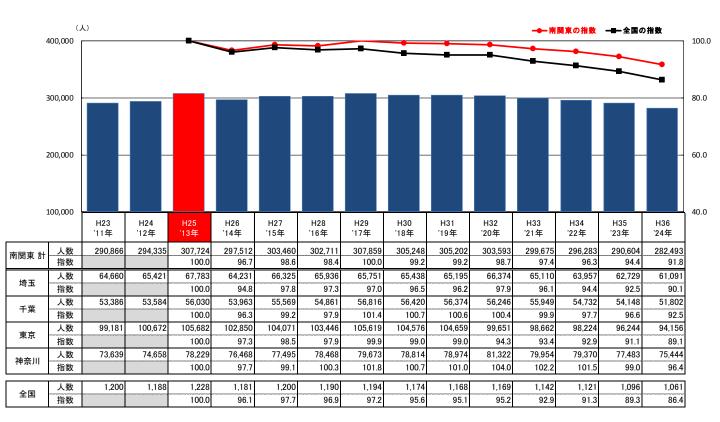
■進学者数・進学率・残留率の推移(データ)



南関東エリア

■18歳人口の推移(概算)

- ・南関東全体では、2013年から2014年で30.8万人→29.8万人に減少、以降増加傾向で2017年には2013年並みに戻る。しかし、 2018年以降1~2%、2021年以降2~3%のペースで減少に転じ、2024年には28.2万人となる。(2013年と比較して2.5万人減、8.2%減)
- ・全国と比較した18歳人口の減少幅は、2014年まではほぼ同じ推移だが、2015年以降は全国を下回り、全国よりも緩やかなペースで減少することがわかる。
- ・都道府県別に2024年までの推移をみると、東京の減少率が最も高く(10.9%減)、次いで 埼玉(9.9%減)、千葉(7.5%減)、神奈川(3.6%減)と続く。



南関東エリア

■進学者数・進学率・残留率の推移(概要)

- ・南関東全体では、2013年の進学率は大学56.0%、短期大学4.0%、専修学校15.6%と、大学進学率が高い (全国平均47.4%)。経年で見ると、大学は大幅な増加傾向で、10年で14.1%の増加。専修学校も2009年 に12.8%まで減少したもののその後上昇している。一方、短大は継続して減少傾向である。
- 2013年の残留率は大学48.0%、短大60.6%。2004年と比較すると大学は微増、短大は増加している。
- ・埼玉県では、2013年の進学率は大学51.3%、短期大学5.0%、専修学校17.7%。経年で見ると、校種ごとの推移は南関東全体のトレンドと同じく、大学は増加、専修学校は2010年以降増加、短大は減少。
- 2013年の残留率は大学32.1%、短大44.1%。経年で見ると、大学はやや減少傾向だが、短大は2011年以降増加傾向。流出先は大学1位は東京、2位千葉、3位神奈川。短大1位は東京、2位千葉、3位群馬。
- ・千葉県では、2013年の進学率は大学49.3%、短期大学4.3%、専修学校18.5%。経年で見ると、校種ごとの推移は南関東全体のトレンドと同じく、大学は増加、専修学校は2010年以降増加、短大は減少。2013年の残留率は大学33.9%、短大54.2%。経年で見ると、大学はやや減少傾向だが、短大は2010年以降増加傾向。流出先は大学1位は東京、2位神奈川、3位埼玉。短大1位は東京、2位埼玉、3位神奈川。
- ・東京都では、2013年の進学率は大学62.1%(全国1位)、短大3.0%(全国47位)、専修学校12.9%(全国47位)で、大学進学率が高く、短大、専修学校進学率が低い。経年で見ると、校種ごとの推移は南関東全体のトレンドと同じく、大学は増加、専修学校は2010年以降増加、短大は減少。
- 2013年の残留率は大学64.3%(全国4位)、短大69.7%。経年で見ると、大学は増加傾向だが短大は減少傾向。流出先は大学短大ともには1位神奈川、2位埼玉、3位千葉。
- ・神奈川県では、2013年の進学率は大学55.6%(全国3位)、短大4.6%、専修学校16.0%。経年で見ると、校種ごとの推移は南関東全体のトレンドと同じく、大学は増加、専修学校は2010年以降増加、短大は減少。2013年の残留率は大学40.6%、短大70.6%。経年で見ると、大学はやや減少傾向だが短大は増加傾向。流出先は大学は1位東京、2位埼玉、3位千葉。短大は1位東京、2位静岡、3位埼玉。

南関東全体 18歳人口30.7万人→2024年28.2万人(減少トレンドは全国より遅い)

進学率:大学56.0%(47.4)、短大4.0%(5.4)、専修学校15.6%(17.0)大学進学率が高い

残留率:大学48.0%、短大60.6% ともに増加傾向

※カッコ内は全国平均

埼玉県 18歳人口6.8万人→2024年6.1万人

進学率:大学51.3%、短大5.0%、専修学校17.7%

残留率:大学32.1%、短大44.1%、

短大は2011年以降増加傾向

流出先:大学1位東京、2位千葉、3位神奈川。 短大1位東京、2位千葉、3位群馬。

東京都 18歳人口10.6万人 →2024年9.4万人

進学率:大学62.1%、短大3.0%、専修学校12.9%、

大学が高く、専修学校が低い

残留率:大学64.3%、短大69.7%、

大学は増加、短大は減少

流出先:大学・短大ともに 1位神奈川、2位埼玉、3位千葉。

神奈川県 18歳人口7.8万人→2024年7.5万人

進学率:大学55.6%、短大4.6%、専修学校16.0%

残留率:大学40.6%、短大70.6%、

短大は増加傾向

流出先:大学1位東京、2位埼玉、3位千葉。

短大1位東京、2位静岡、3位埼玉。

千葉県 18歳人口5.6万人→2024年 5.2万人

進学率:大学49.3%、短大4.3%、

専修学校18.5%

残留率:大学33.9%、短大54.2%、

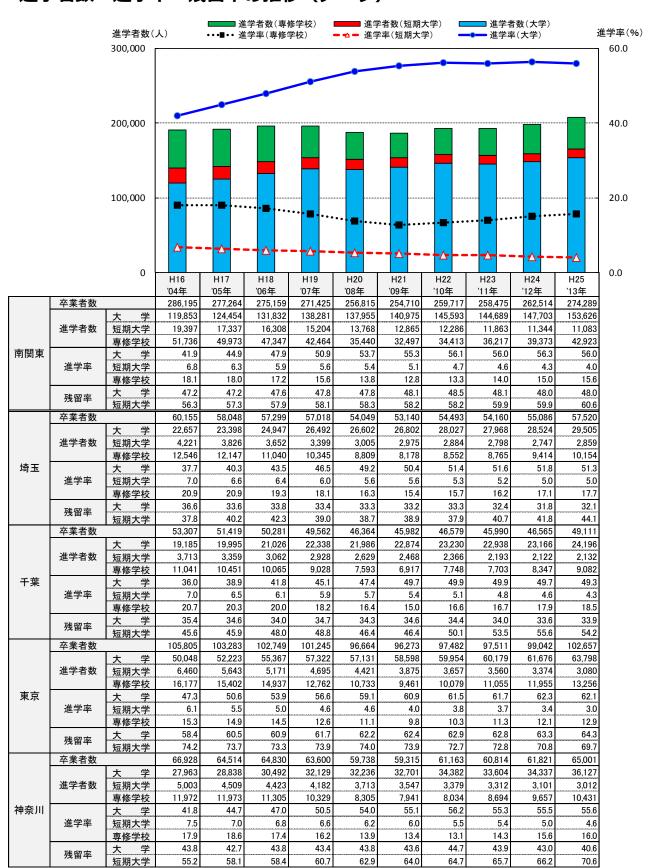
短大は2010年以降増加傾向

流出先:大学1位東京、2位神奈川、3位

√埼玉。

短大1位東京、2位埼玉、3位神奈川。

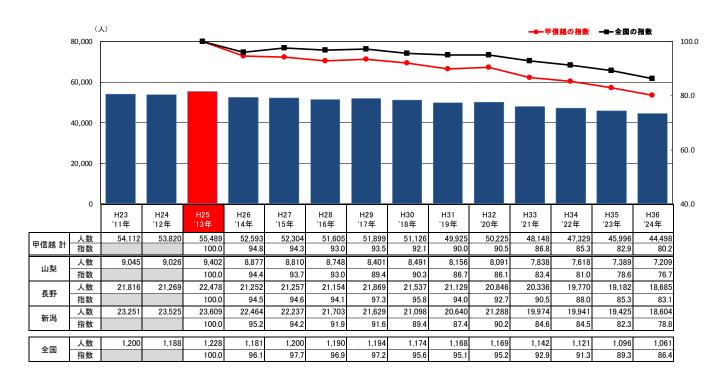
■進学者数・進学率・残留率の推移(データ)



甲信越エリア

■18歳人口の推移(概算)

- ・甲信越全体では、2014年に5.5万人→5.3万人に減少、 2015年以降1~2%、2021年以降 2~3%のペースで減少に転じ、2024年には4.4万人となる。(2013年と比較して1.1万人減、19.8%減)
- ・全国と比較した18歳人口の減少幅は全国を上回り、全国よりも速いペースで減少。
- ・都道府県別に2024年までの推移をみると、山梨の減少率が最も高く(23.3%減)、次いで新潟(21.2%減)、長野(16.9%減)と続く。



甲信越エリア

■進学者数・進学率・残留率の推移(概要)

- ・**甲信越全体**では、2013年の進学率は大学41.3%、短大6.9%、専修学校24.0%と、専修学校進学率が高い (全国平均17.0%)。経年で見ると、大学は2009年の43.4%をピークに減少。短大も継続して減少傾向。 一方、専修学校は2009年に20.5%まで減少したもののその後上昇している。
- ・新潟県では、2013年の進学率は大学40.2%、短期大4.8%、専修学校28.0%と、専修学校進学率が高い。 経年で見ると、大学は2009年の42.6%をピークに減少。短大は継続して減少傾向にあり、ここ10年で半数 に減少。専修学校は2009年に22.5%まで減少したものの、その後上昇している。

2013年の残留率は大学35.6%、短大65.0%。経年で見ると、大学は増加傾向、短大は2012年以降増加傾向。 流出先は大学1位は東京、2位神奈川、3位埼玉。短大1位は東京、2位長野、3位埼玉。

・山梨県では、2013年の進学率は大学51.3%、短大6.0%、専修学校16.9%。経年で見ると、大学は2009年の52.5%をピークに減少。短大は継続して減少傾向にあり、専修学校は2009年に15.5%まで減少したものの、その後上昇している。

2013年の残留率は大学26.3%、短大68.5%。経年で見ると、短大は2012年以降増加傾向。流出先は大学1位は東京、2位神奈川、3位埼玉。短大1位は東京、2位神奈川、3位静岡。

・長野県では、2013年の進学率は大学38.0%、短大9.6%(全国1位)、専修学校22.9%(全国4位)と、 短大、専修学校進学率が高い。経年で見ると、大学は2008年からほぼ横ばい。短大は継続して減少傾向にあり、専修学校は2009年に20.5%まで減少したものの、その後上昇している。

2013年の残留率は大学16.4%(全国43位)、短大75.2%と、大学の残留率が低い。経年で見ると、大学は ほぼ横ばい、短大は増加傾向。流出先は大学1位は東京、2位神奈川、3位埼玉。短大1位は東京、2位山梨、 3位愛知。

甲信越全体 18歳人口5.5万人→2024年4.4万人(減少トレンドは全国より速い)

進学率:大学41.3%(47.4)、短大6.9%(5.4)、専修学校24.0%(17.0) <u>専修学校進学率が高い</u>
※カッコ内は全国平均

新潟県 18歳人口2.4万人→2024年1.9万人

進学率:大学40.2%、短大4.8%、専修学校28.0% 専修学校が高い

残留率:大学35.6%、短大65.0%、

大学は増加傾向

流出先:大学1位東京、2位神奈川、3位埼玉。 短大1位東京、2位長野、3位埼玉。

長野県 18歳人口2.2万人 →2024年1.9万人

進学率:大学38.0%、短大9.6%、専修学校 22.9%、

残留率:大学16.4%、短大75.2%、<u>大学が低い</u> 流出先:大学1位東京、2位神奈川、3位埼玉

短大1位東京、2位山梨、3位愛知~

山梨県 18歳人口0.9万人 →2024年0.7万人

進学率:大学51.3%、短大6.0%、専修学校 16.9%、

残留率:大学26.3%、短大68.5%、 流出先:大学1位東京、2位神奈川、3位埼玉 短大1位東京、2位神奈川、3位静岡

甲信越エリア

■進学者数・進学率・残留率の推移(データ)

